

その3

北部振興策で茸生産出荷施設完成

（初のエノキタケの県内供給）

沖縄北部特別振興対策事業の一環として、今帰仁村において平成十三年度から整備を進めていた茸生産出荷施設がこのほど完成し、去る十月三十一日同施設において、内閣府、林野庁をはじめ、沖縄総合事務局、沖縄県、今帰仁村及び工事関係者らが多数出席の下、落成式が開催されました。

今帰仁村の農業の基盤をなすのはさとうきびをはじめとして、花き類及びすいかそれに畜産であります。

花きはキクが主体で平成八年には沖縄で第一位の大産地となつており村農業生産の第一位を占めています。特にすいかは「今帰仁すいか」といわれ県内外でブランド化されるまでわかれ県内外でブランド化されるまでに至っています。

また、林業については、これまで林道事業を始め、林業構造改善事業における乙羽岳内のキャンプ場や森林体験交流促進施設であるバンガロー等や県内の公共施設の緑化にかなり貢献している緑化木生産も盛んです。

こうした中、同施設は北部振興策で整備された県内初の林業関係施設

として昨年七月に完成しました。今帰仁村が施設を管理、農業生産法人「乙羽有機」が運営を行う形で、既に十月から県内大手スーパー等に出荷が始まっています。

また、同施設は二階建鉄筋造りで、菌培養から出荷に至る一連の作業を機械的に行なうことができ、一サイクルを約六十日として、周年稼働により年間約三百八十トンを生産目標としています。

これまで、県内で消費されるキノコについては、大部分が県外からの移入で賄つておりましたが、同施設の完成により、県内消費量の九十五トンに対し四十パーセント（年間三百八十トンの生産）のシェアを占めることとなり、今後は新鮮なエノキタケを県民に安定的に供給して、キノコの消費拡大を図るとともに、雇用の場を創出し、地域振興に大きく貢献できるものとして今後期待されるとこです。

式典では、関係者によるテープカットや挨拶後に、施設内でのエノキタケの生産、出荷状況の見学が行わ

れました。また、式典終了後に祝賀会が催され、沖縄総合事務局からは前川農林水産部長が挨拶を述べ、関係者の方々とともに茸生産出荷施設の完成を祝いました。



茸生産出荷施設



特用林産物とは？

特用林産物とは、主として森林、林野において天然にあるいは人手を加えて産出された産物で、経済的価値があり、地域住民の生計維持に役立たれる木材以外の産物の総称です。

本県の特用林産物は生しいたけ、ひらたけ類、たけのこ、木炭等がありますが、復帰後、特用林産物生産奨励事業をはじめ、林業構造改善事業、林業集落振興対策事業等の補助事業及び制度資金により、生産施設等が整備されたことで、生産量も増加しました。

このような中で、茸生産出荷施設が完成し、十月から初の県内供給開始となつた茸類（エノキタケ）の生産量が林業統計の数字（品目）として計上されることとなり、県内における消費拡大が大いに期待されるところであります。

なお、県内における昭和五十二年以降の特用林産物生産量の推移は下表のとおりであります。



県内特用林産物生産量の推移

年度	作目	生しいたけ (トン)	ひらたけ類 (トン)	たけのこ (トン)	オオタニワタリ 千枚(トン)	ピロウ葉 (千枚)	木炭 (トン)	しきみ (切葉kg)	ユーカリ (枝葉) 千本(トン)	竹 (束)
昭和52年		3.4	-	-	-	20	130	-	-	1,000
53		17.8	-	-	635	70	135	-	-	1,040
54		37.6	-	4.0	456	15	244	-	-	1,395
55		42.7	-	19.0	585	9	257	-	-	2,372
56		44.7	-	23.8	534	44	194	-	-	3,560
57		43.9	14.4	4.2	1,028	9	386	-	-	90
58		32.2	23.8	11.4	3,702	10	396	-	-	-
59		32.6	57.5	35.0	2,459	19	422	-	-	1,730
60		33.8	69.3	36.7	1,124	18	726	-	-	4,885
61		33.1	85.3	27.6	1,147	47	732	-	-	5,580
62		31.7	74.9	21.8	1,223	40	774	-	-	500
63		39.9	58.9	20.4	1,414	37	831	9	14(5.2)	800
平成元年		36.7	124.5	26.2	1,358	13	832	1	15(5.5)	200
2		35.4	149.4	15.2	1,275	22	765	0	17(6.3)	340
3		24.1	195.2	7.3	1,568	22	647	0	16(5.9)	360
4		27.4	207.2	7.5	1,570	25	625	10	16(5.8)	-
5		18.4	161.0	11.2	1,822	4	777	142	18(6.6)	600
6		17.2	124.2	8.4	1,797	2	721	200	17(6.3)	480
7		12.6	81.0	8.0	3,519	18	671	476	18(6.6)	620
8		9.6	69.2	2.4	4,100	8	545	526	12(4.4)	635
9		10.0	93.9	1.1	3,816	8	451	482	8(2.8)	360
10		7.9	106.7	3.4	2,673	24	441	490	15(5.3)	438
11		8.0	70.9	4.4	3,027	21	453	260	8(3.1)	260
12		8.9	47.1	4.3	851(1.1)	20	490	242	7(5.4)	247
13		17.0	38.5	7.4	776(1.0)	30	464	297	5(15.2)	-

注) 表: 沖縄県農林水産部林務課・みどり推進課「沖縄の森林・林業 平成14年版」

平成12年から、オオタニワタリ(切り花用)については林業サイドで導入した施設栽培のみを対象とした。

トン集計のオオタニワタリは、食用として出荷している生産量である。